

	
---------------	---------------

上司様

いつも大変お世話になっております。

本当にこの言葉の通りで、昨年是不発4連発の企画（萌黄 RD/MD26th/さんいん 1300/毛利チャレンジ）のチラシを、ショップに同送して頂き、本当にありがとうございます。
またご迷惑ではなかったでしょうか？

そしてこの超大型連休の企画（Go 羅漢）も、また不発に終わってしまい、間違いない戦略の見直しを迫られている状況で、「拘り」と「布石の回収」を行うべきか悩んでいるところです。

▼もえぎのラリーデイ2018
<http://bikejoy.web.fc2.com/ICD/MocMRT/Moe18.htm>
▼さんいん 1300
<http://www.bike-joy.com/Sanin1300.htm>
▼第26回小海マイアデュエーロMTB24時間耐久レース
<http://www.bike-joy.com/MD26th.htm>
▼THT26◇毛利チャレンジ2018
<http://bikejoy.web.fc2.com/ICD/MocMRT/Momi18.htm>
▼Go 羅漢ハイランドギヤザリング
<http://www.bike-joy.com/GoRakan.htm>

話は平成元年（1989年）に遡ります。その年、「シマノ遊ingA T B」というキャンペーン企画の実施に伴い、原宿にあったスポーツプランニングハウスに就職し、その後のMTBブームで上司さんとも接点ができ、同様に「トレイルメンテナンス」や「ツーリングコンペティション」とも出会います。

「拘り」とは、ツーリングコンペティションを「街道・山道・町の道」で展開することで、中上級者を対象に活動していた「スターバイク・ジャパン」から、日本の実情にあった自転車遊びを模索する『転遊研』に方向転換しながらも「ルート・エス」「とれとれバイク」「THT26◆自転車さんぼ」というオリジナル企画を仕掛け、少なくともシモノバイカーズのツーリング部門を担っていたのは事実です。
そして「布石の回収」とは、シモノバイカーズだけでは解決出来ない「自転車市民権獲得」に向けた幾つかの布石をどうするかと言うことです。

布石を置き始めたのは、バイカーズ30周年の話が出た東日本大震災以降ですが、それ以前はまだ「街道・山道・町の道」が確立されておらず、「シモノ」と「自転車協会」という二枚のオールマイティを手に入れて、若干強気布石を打った、と言うことです。

▼転遊研活動指針 2016～2020
<http://bikejoy.web.fc2.com/JCP/JCP/TUK2020.htm>

またそこに、「東京オリンピック」や「明治維新150周年」が重なり、さらに「自転車活用推進法」も施行され、追い風を掴もうとしたけれど、それは乱気流だと思わざるを得ません。

追い風を掴もうとしたのは、オールマイティの一枚を失ったからですが、その手札も担当者が変わって、方向性が合わなくなったのが要因で、致し方ない側面もあります。
そして、東京オリンピック 2020 は、超大型ハリケーンと言うことは解かっており、また自転車活用推進法は、列島を駆け抜ける二つ玉低気圧のようであり、明治維新150周年は、局地的な春一番と言えます。
特に山口県では春一番の期間前に風が吹いてしまった感があり、豪雨災害があったにも拘わらず健闘した中国5県の昨年の訪日観光客数の中で、山口県のみが前年より減っているのは、自転車も維新150周年も政治に利用されているような。。
とは言え、もう一枚のオールマイティ「サイクルエイドジャパン」は政治絡みであり、上司さんと話した国会で“サイクリングの法的根拠”に対する政府答弁を引き出すと言う作戦に代表されるように、その布石の扱いは慎重にならざるを得ません。

▼Go 羅漢ハイランドギヤザリング
<http://www.bike-joy.com/GoRakan.htm>

さて戦略の見直しですが、これまでは「中上級者向け」から「自転車遊びの模索」、そして「自転車市民権獲得」へと、より守備範囲を拡げ、関係者の共感を得ようとしてきましたが、禁じ手である“道路の目的外使用”と言う“イベントサイクリング”に行く手を遮られてしまい、またネット社会による情報格差や流通難民も影響しており、拘りのキーワードが色褪せている状況です。
戦略の見直しとは、その巻き返しになるかいなかです。

私の拘る「街道・山道・町の道」での“ツーリングコンペティション”は、“道路の等身大利用”と言え、その運営には以下の拘りのキーワードが並べられます。

「ショップのメリット・デメリット／継続にはニュートラルの立場が必要条件」
「時には参加者・時にはスタッフ／リバーシブル運営が等身大イベントの基本」
「走り出したら自己責任／大人のサイクリングの大前提」
「春需でソフト／自転車遊びの入口はショップでの出会い」

これらは“上げ膳据え膳で走る”イベントサイクリングではない、“組織で遊ぶ”ツーリングコンペティションを運営する基本ですが、「自転車市民権獲得」のための“クロスド&オープン”の提案”の前提、“地域貢献型マルチサイクリングクラブ”の理念にも相当します。

▼クロスド&オープン”の提案
http://bikejoy.web.fc2.com/JCP/CKYP7_RCAJ.htm

その“マルチ”の中に、当然“スクール”も含まれ、不発に終わった「Go 羅漢」でも、パントラックや練習用 MTB コースを走る前にレンタサイクル利用者の技量をチェックしたところ、日常利用とスポーツ利用の違いを学ぶスクールの必要性を痛感したところで、それは上司さんから言われた「テクニクの習得」の再確認に他なりませんでした。

それには、これからお世話になろうとしている羅漢高原の場長であり、(有)らかん高原の林社長の共感を得ることができ、「Go 羅漢ゴーブランその1：週末企画／ミニスクー

ル&定番ツーリング」をまず考え、続いて、私の拘りや究極の目標についても視野に入れることに同意して頂いたところでした。

▼Go 羅漢ゴーブラン
http://bikejoy.web.fc2.com/toretoreGR/Yamashiro_Trail_Maintenance.htm#20192020

そう言った超大型連休の企画の不発を踏まえた上での戦略の見直しになりますが、「拘り」があるため独善的な部分と、アドバイスを頂きたい部分があります。

まず独善的な部分は、友人の見も聞いた上で考えていますが、「自転車遊び総合研究会／Bicycle Play Research Group」を、「自転車遊び融合研究室／Bicycle play fusion laboratory」にしたいと思います。

これまでの「転遊研‘R’」で解かったことは、総論賛成各論反対の自転車村の「敵は身内に在り」言う実情です。そしてこれからの「転遊研‘F’」で目指すことは、自転車村の玉石混合のソフトの垣根をとかす作業であり、特に日常利用とスポーツ利用のテクニクの差異を組上に載せることです。
かなり守備範囲が狭まりますが、それは協力者の入れ替わりによる私の考え方の変遷で、最終目標にブレはありません。(多分?)
それは、「単発のイベントではない、継続的な仕組み作り」と言うことで、今のところ、組織で遊ぶツーリングコンペティションに集約されます。

続いてやっと本題である、アドバイスを頂きたい部分です。
それは冒頭で触れたショップへの同送物の中身になります。
キーワードは「転遊研‘F’時々スクール」「春需でソフト」「5月は自転車月間」で、それに布石としての「毛利チャレンジ総括＋岩国市への提言」が加わります。

▼岩国市への提言
http://bikejoy.web.fc2.com/ICD/MocMRT/MomiMoc18.RRSK_DouFuu.htm#08

独善的な表紙変更の認知や、羅漢高原の本来の所有者、岩国市の同意など、未確定の要素がありますが、羅漢高原を中心に山口県・広島県・鳥根県を跨ぐエリアで「拘りのツーリングコンペティション」を展開しつつ、「MTB24時間耐久レースの東西隔年開催」に注力するとしても、それでも外せないのが「春需でソフトを売る!」と言う自転車村の命題です。

自転車遊びの充実を考えるなら、ショップやクラブの役割は重要ですが、それが機能しなくなっています。その理由は様々で、それを転遊研‘R’で検証しましたが、結局、道路の目的外使用の壁、即ち、曖昧なサイクリングの法的根拠に阻まれて、その作業は、ほぼ無意味となりそうです。

そこで転遊研‘F’では、「日常利用とスポーツ利用のテクニクの差異を組上に載せること」として、ショップの役割に「自転車遊びのバックアップ」を加えたいと考え、そのため“春需でソフト”の第一歩として各地の自転車スクール情報をまとめ*5月は自転車月間」に合わせて同送配布が出来ればと思います。
また二の矢として、「一期一会の日本一周」として、かねてよりの「ナショナルプルベ」の実現に向けた協力を、各地の有力ショップや元氣なサイクリングクラブに呼び掛け、それを「秋需でもソフト」に出来ればと思います。
さらに、「時には参加者・時にはスタッフ」を共通認識とするための活動、“巡回型転遊研‘F’時々スクール”も将来的に組み込めればと考えます。
その活動に対して、理解を頂いた上で、サイクリングの春と秋のベストシーズンに合わせた定期的な同送作業に意味を持たすことが出来ないかと言うご相談です。

枕が長すぎるので「その活動」をまとめます。
「毛利チャレンジ総括＋岩国市への提言」以前の布石は捨てて、超大型連休の不発企画からのセントを基に、「転遊研‘R’」から「転遊研‘F’」に表紙を変え、守備範囲を「自転車市民権獲得」から「玉石混合ソフトの融合」に変え、それでも拘りのツーリングコンペティションの核となる「ナショナルプルベ」構築に向けた組織作りを目指す活動、となります。つまり、【単発のイベントではない、継続的な仕組み作り】＝【組織で遊ぶツーリングコンペティション】を舞台布に出すことです。

以上になりますが、東京サンエスさんとの連携の可能性を小出ししながら諸々の企画調整を進めたいので、ご検討頂ければ幸いです。

▼Go 羅漢ゴーブラン調整ページ
https://bikejoy2.web.fc2.com/toretoreGR/go_rakan_fusion.htm

長文乱文失礼しました！改めてご連絡しますので、宜しくお願いします。

★番外相談 1：下記 URL は、「サイクリングに最適な不理不尽な道」と「第 1 回ナショナルサイクルルート制度検討小委員会配付資料」へのリンクです。大人のグループサイクリングの法的根拠が曖昧な日本に於いて、果たしてどうなると思われますか？

▼理不尽な道
http://bikejoy.web.fc2.com/JCP/YBK/Road_of_Riujin.htm
▼ナショナルサイクルルート
<http://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-council/ncr/doc01.html>

★番外相談 2：下記 URL は、上記の「ナショナルサイクルルート」のニュースをラジオで聞いて検査中にネットニュースで見つけたものです。これから、旅行代理店や広告代理店に利益が集中することが透けて見えます。それが悪い訳ではありませんが、「サイクリングはオルタナティブツールズム」という概念のもと、「道路の目的外使用へ対抗策クロスド&オープン」という布石を打とうと「拘りの道路の等身大利用」を考えている訳ですが、「政策」という力技にはかなわないのでしょうか？

▼日本の観光地はなぜ「これほどお粗末」なのか
<https://toyokezai.net/articles/~282367>

因みにナショナルサイクルルート小委員会には、3名の知り合いの名前がありました。。。
また「サイクリングルート」ではない『サイクルルート』には、箱モノの匂いがします。。。
